

天文の基礎知識

今年の「立春」と「節分」

地球は1年かかって太陽の周りを一周しますが、その地球に住んでいる私たちから見ると、逆に太陽が星座の中を通りながら下の図のように1年かかって地球の周りを一周するように見えます。

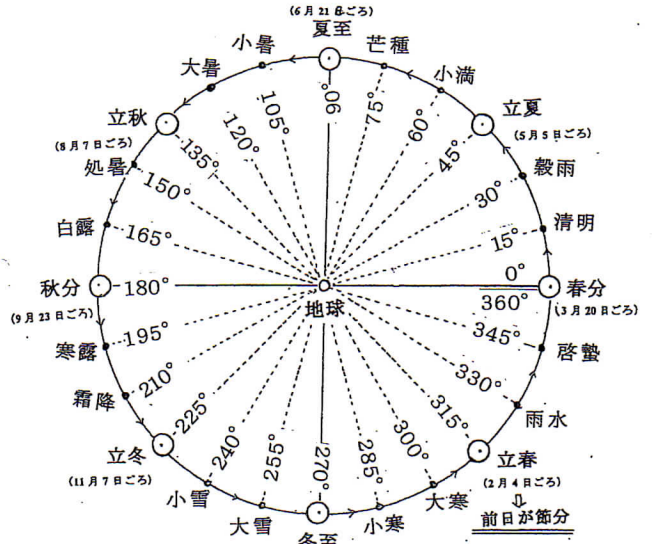
この太陽が地球を回るように見える道を黄道と言います。その黄道に地球の赤道の真上を通るところが2点あり、そのうちの1点を「春分点」、もう1点を「秋分点」と言って、そこを太陽が通る日を「春分の日」と「秋分の日」と言います。

その春分点を起点(初めの点)にして黄道を15°ずつ24にくぎり、それぞれのところに図のような名前をつけてこれを24節気と言っています。そうすると24節気のそれぞれは、毎年、だいたい同じ月のころになります。

ところが、24節気の起点にする春分点が、地軸(地球の北極と南極を通る直線)が傾いていることや地球が他の天体から受ける力の影響などによって、少し黄道上を移動します。さらに、4年に1回ある閏年も関係して、24節気のそれぞれの日も1日か2日ぐらいうるうどずれることがあります。

春分点から数えて315°のところに太陽が来た日が「立春」、その前の日が「節分」(豆まきをする日)でそれがこれまではずっと2月4日と2月3日でした。

しかし今年は、上に書いた春分点の移動などの関係で、立春も節分も124年ぶりに1日ずつ早まり2月3日が立春、前の日の2月2日が節分になります。



銀河宇宙探検隊 2020

六郷小学校4年 中村仁美さん
「わたしの星座ノート」

銀河宇宙探検隊では、一人ひとりが自分の観察するテーマを決めて家でも活動を行っています。その一つを紹介しましょう。(右は観察した「カシオペア座」の記録)

星座をたくさん知りたかった中村さんがえらんだテーマは、星座を本当の星空で観察したり、図鑑で星座の形や神話などを調べる「わたしの星座ノート」です。中村さんの観察記録を見てみると、

- ・全部で8星座を調べたが、3星座を観察できた。
- ・星座には肉眼で見えるものも見えないものもあった。
- ・星座には必ずそれぞれの神話がある。
- ・自分の星座のほかに家族の星座も観察できた。

さいごに「おおいぬ座(冬の星座)の神話がおもしろかったです」とまとめてくれました。お母さんといっしょに見たのもうれしかったのではないのでしょうか。

=今回は自宅観察の紹介です=

星座の名前: カシオペア座

観察したときのデータ

日	に	ち	11月2日
時	刻		21時
場	所		家のにわ
ほう	が	く	北
高	さ		

	<p>とくちよう 北の空にMの向きになって います。秋から冬が見ごろです。 春から夏は低い位置にあり ます。しかもこの時は、Mの 向きになっていました。ふしぎで すね。</p>
--	--

	<p>神話 娘のペンドロメタ姫のこころを もんに自まんしてしましても 海のニンはわかいらと海の神 につわり国をおおうと言いまは 困った国王は神におねがいする 突いの原因となった娘を化けか そのいけにしようとした。泣く 娘は海に身をまかせた。</p>
--	--

感想
今日、お母さんと空を見て見つけました。とても見つけやすかったです。